「感動した」会場の声

「初めて被災者の声を聞いた」「ナマの声に胸が熱くなった」「大変なご苦労をされていることがよくわかった」「阪神と重ね合わせ、復興の長い道のりを思った」「何か自分ができるお手伝いをしたい」「チームの皆さん、KSCのためによくやってくれた」など、報告会場では様々な感想が聞かれました。（＝写真㊤花城アリアさんと「ふるさと」を歌う3次チーム）

【チーム６人の体験発表要旨】

①「銭太鼓体験教室で交流」（阿部和子）＝仮設での活動は初めてだったが、いい経験になった。石巻の日和山公園で、行商のおばさんから「神戸からよく来てくれたね」とトマトをたくさんもらった。野菜不足だったのでありがたかった。妻がまだ行方不明という焼きそば販売のおじさんからも、辛い話を聞いた。偶然の出会いだが、被災者の心の一端に触れることができた。

②「民謡を一緒にうたい、東北の心に触れた」波多野武郎＝公演の前に仮設で呼び込みをしたら「よく来てくれた」と声がかかり嬉しかった。ホタテの養殖が全滅してしまい「ハンデを持つ息子はどうやって生きていくんだ」と嘆く母親の話が胸を離れない。

③「瞳輝く明るい笑顔を子供たちに」内田たみ子＝映像を使って、現地でやった昔遊びの数々を説明。「昔遊びは子供たちの夢と生きる力をはぐくむ」と。

④「子供たちはマジックが大好き」三浦良子＝ある保育所で司会が、「見たいものなーに？」と聞いたら、子供たちはいっせいに「マジック！」と。嬉しかったですね。期間中、10回ぐらい出演したが、”心のケア”に少しでも役立てば、と思っている。

⑤「子供たちと楽しく歌ってきました」山田保子＝子供たちが、心から歌える日はいつくるのだろうか。ガレキだけが残っている現地を見て、復興はまだまだ遠いと感じた。神戸のじいじ、ばあばも応援していると声をかけてきた。

⑥「東北と神戸の橋渡し～子供たちの交流のために」古後健一（健18）＝神戸から持参したメッセージ、訪問先の小学校などから届いたお礼のメッセージを画像で紹介しながら、1次～3次の交流を振り返る内容だったが、時間の関係で急きょ割愛となった。

－－－